

2025 年 10 月 12 日

【カナでの婚礼】

ヨハネによる福音書 2 章 1-11 節

- 1 三日目に、ガリラヤのカナで婚礼があって、イエスの母がそこにいた。
- 2 イエスも、その弟子たちも婚礼に招かれた。
- 3 ぶどう酒が足りなくなったので、母がイエスに、「ぶどう酒がなくなりました」と言った。
- 4 イエスは母に言われた。「婦人よ、わたしとどんなかわりがあるのです。わたしの時はまだ来ていません。」
- 5 しかし、母は召し使いたちに、「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください」と言った。
- 6 そこには、ユダヤ人が清めに用いる石の水がめが六つ置いてあった。いずれも二ないし三メートル入りのものである。
- 7 イエスが、「水がめに水をいっぱい入れなさい」と言われると、召し使いたちは、かめの縁まで水を満たした。
- 8 イエスは、「さあ、それをくんで宴会の世話役のところへ持って行きなさい」と言われた。召し使いたちは運んで行った。
- 9 世話役はぶどう酒に変わった水の味見をした。このぶどう酒がどこから来たのか、水をくんだ召し使いたちは知っていたが、世話役は知らなかったので、花婿を呼んで、
- 10 言った。「だれでも初めに良いぶどう酒を出し、酔いがまわったところに劣ったものを出すものですが、あなたは良いぶどう酒を今まで取って置かれました。」
- 11 イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行って、その栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。

【カナでの結婚式、ぶどう酒が・・・】

ナザレからそれほど遠くない町カナで婚礼があり、母マリアは単なるお客様としてではなく、接待について気を遣うような立場で招かれていました。

当時の結婚式は一週間ほど宴会が続きました。

それは朗らかな、明るい式でした。そういう状況の中で「葡萄酒がなくなった」というのはある意味大失態だと思います。

それは単に飲みたいのに飲めないと言う問題ではなく、結婚式のなかでラビが何度か新郎新婦を祝福して祈るのですがその際に葡萄酒を用いるのです。ですから、それがないと、結婚式が無事に進まないし、終わらないのです。

実に深刻な問題です。

「ぶどう酒がなくなりました」と母がイエス様に告げると

4 イエスは母に言われた。「婦人よ、わたしとどんなかかわりがあるのです。わたしの時はまだ来ていません。」という答えが返ってきました。

この母に対する答えは日本語ではちょっと不謹慎な言葉に聞こえます。しかし、当時の表現としては、比較的丁寧な応答だったと言われています。

「わたしは今、あなたの息子だからこの事柄に応えるではありません。あなたとわたしの関心は違います。私がこの地上にいる本当の理由はこの葡萄酒の問題を解決するためではありません。実はもっと重要な事項が待っているのです。」これがイエス様の応答の意味でしょう。

母は、それを理解し、息子を信頼し、召し使いたちに、「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください」と告げるのです。

【6 個の水瓶と不思議な出来事】

イエス様は一見不思議なことを指示します。

6 そこには、ユダヤ人が清めに用いる石の水がめが六つ置いてあった。いずれも二ないし三メートル入りのものである。

7 イエスが、「水がめに水をいっぱい入れなさい」と言われると、召し使いたちは、かめの縁まで水を満たした。

一メートルは約 40 リットルですから、80 リットルから 120 リットルの大きさの水がめだったのですが、6 個の水瓶に水を満たすように命じたのです。

その作業は大変だったと思います。

それよりも、その意味はどこにあるのでしょうか。

実は、当時のユダヤ人たちは、外から帰って家に入るときや食事の時に、また、汚れた身をきよめるために、水で手足を洗う習慣がありました。それで各家庭には、きよめの水を入れる水がめが置かれていたのです。

しかし、それは衛生的な理由からというよりも、宗教的な理由からでした。

旧約聖書の律法には、汚れたものに触れて身を汚した者は、水で身をきよめなければならないという規定があったからです。

それで彼らは、外出したときに知らないうちに汚れたものに触れて身を汚したのではないかと心配して、家に入る前に水で身をきよめていたのです。それは、神様に受け入れていただくために大切な宗教的な儀式だったのです。

しかも、人々はそれを繰り返し繰り返し行っても、一向に自分の心は清められず、心が新鮮に、きれいにならないことを知っていました。

つまり、この 6 個の水瓶は「宗教的な清めのしきたりの不完全さ」を象徴していたのです。

イエス様はそこに水を満たし、係の人がそれを汲んで宴会の世話役のところを持っていくと最上級の葡萄酒になっていたというのです。水が喜びをもたらす葡萄酒に変わっていたのです。

それは、イエス様がきて、わたしたちにもたらしてくださった祝福のひとつ。

「宗教的な清めのしきたりの不完全さ」を象徴していた水瓶の水を通して「結婚式が清められるための」最上級の葡萄酒が振舞われることになり、「喜び」がもたらされ、清く明るい結婚式が「完結」できたということ。

イエス様は、不完全な宗教的な清めの儀式を踏襲するのではなく、イエス様ご自身が救い主として完全な清めと祝福をもたらすお方としてきてくださった救い主だという事を示されたのです。

2:11 イエスはこのことを最初のしるしとしてガリラヤのカナで行い、ご自分の栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。

とありますが、奇跡という言葉ではなく、「しるし」と書いている理由は、目的のある奇跡だからです。その目的とは、イエス・キリストが天から来られた約束の救い主であることを証明することです。

キリストは救い主としての権威と栄光をしるしによってあらわされたのです。

イエス様は「実際には人を清くできない不完全な清め水」を「喜びと清め」とをもたらす葡萄酒に変えてくださいました。それこそ、救いがそこにあるのです。

弟子たちはしるしを見てイエス・キリストを信じました。

＊ ＊

youtube での礼拝映像はこちらです

<https://youtu.be/MHzKdWFKTK0>